

## ●浜の話題

- 6月26日から7月4日にかけて、県水産技術センターは県内6ヶ所（横浜市金沢区、横須賀市走水、北下浦、鴨居、久留和、長井）に、平均全長約4cmのトラフグ種苗を合計85,300尾放流しました。放流場所はトラフグ種苗の育成に適したアマモ場や河口近くのごく浅い砂浜で、トラックの水槽からサイフォン方式で直接海中に放流しました。



走水（左）と久留和（右）でのトラフグ種苗放流の様子。  
走水はアマモ場、久留和は漁港内の砂浜に放流しました。

放流直前のトラフグ種苗

- 6月29日、小田原市漁協は6月上旬に集中的にガンガゼ駆除を行った小田原漁港蓄養海面において、駆除後の調査を実施しました。その結果、駆除前と比べ生息密度が半減していました。繁殖期前に集中的に駆除したことで、周辺の磯根へのガンガゼ拡散防止に一定の効果があったと考えられます。小田原市漁協では今後も駆除を行い、磯根漁場を保全していくとのことです。
- 7月5日および7月12日、みうら漁協金田湾地区の漁業者が生産したワカメ種苗の育成状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。種苗の育成状況はいずれも順調で、一部芽胞体（ワカメの芽のようなもの）が観察された種糸については、育成小屋の中をより暗くする等の管理方法を担当普及指導員から指導しました。
- 7月6日、岩漁協、真鶴町漁協および福浦漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、各漁協の地先に平均全長約6cmのヒラメ種苗を合計29,760尾（岩11,160尾、真鶴13,600尾、福浦5,000尾）放流しました。これらの種苗が今後、地先のヒラメ資源として寄与することが期待されます。
- 7月9日、長井町漁協と横須賀市大楠漁協は、（一財）横須賀西部水産振興事業団と（公財）神奈川県栽培漁業協会の支援を受け、各漁協の地先に平均全長約6cmのヒラメ種苗を合計32,800尾（長井21,000尾、大楠11,800尾）放流しました。ヒラメ種苗はみな状態がよく、海底に向かって元気に泳いでいきました。
- 7月9日、鎌倉漁協漁業研究会は会員の漁業者14名が参加した研修会を開催しました。担当普及指導員からチョウセンハマグリ漁業で先進的な藤沢市漁協の取り組み、また他地区におけるブランド化や異業種連携等の普及成果について説明を受け、今後の取組を検討していくことになりました。



研修会の様子

- 7月10日、千葉県の夷隅地区漁協女性部連絡協議会と関係機関職員計22名が鎌倉漁協を訪れ、アカモクの製品加工等を視察しました。当日は、同漁協漁業研究会部長の原青年漁業士（三郎丸）が、加工直売所でアカモクの製品加工や直売状況等について説明しました。一行はその後、同漁協の若手漁業者とお互いの漁業や後継者問題の現状、サザエ加工品等について情報交換しました。



漁業研究会部長が説明



情報交換会の様子

- 7月11日、横須賀市東部漁協浦賀久比里支所、（一財）東京湾南部水産振興事業団および（公財）神奈川県栽培漁業協会は、浦賀地先に全長約8cmのカワハギ種苗11,000尾を放流しました。放流種苗のうち156尾には、アンカータグ型の標識（赤118尾、緑38尾）を着けました。標識のついたカワハギが再捕されたときは、担当普及指導員までご連絡ください。
- 7月13日、平塚市漁協により漁業新技術検討会が開催され、漁協や市の職員のほか、東京大学生産技術研究所や関連企業等の幅広い分野の方々に参加しました。今年、地先で行われた海底耕耘の実施結果や、ICTを使用した最新の魚類養殖方法などの情報が提供され、活発な意見交換が行われました。

## ●お知らせ

- 8月5日日曜日、小田原漁港で小田原みなとまつりが開催されます。会場では、朝どれの鮮魚販売やタッチングプールなどもりだくさんのイベントが行われ、また県水産技術センター相模湾試験場も漁業調査船ほうじょうによる海洋観測体験や定置網模型の展示などを実施しますので、皆様是非ご来場ください。
- 8月15日水曜日、城ヶ島漁協は三崎・城ヶ島花火大会に合わせ、同漁協直売所前において「イセエビ釣りまつり」を開催します。このイベントは城ヶ島産イセエビのPRのため実施されるもので、イクスに入ったイセエビを釣り上げる体験ができます（要参加費）。釣ったイセエビは炭火で焼いて食べるか、オガクズに入れて持ち帰ることができますので、皆様是非ご来場ください。